

[5番 喜田里歩さん登壇]

○5番(喜田里歩さん) おはようございます。喜田と申します。よろしくお願いいたします。本日は、このような発言をする機会をいただき、感謝しております。

それでは、通告に従いまして質問させていただきます。

私は、スポーツ競技団体に10年以上勤務しています。職場では、スポーツを楽しむことで、心身に好影響があることを身近に感じています。業務の中には、競技スポーツを経験していない保護者の方や、小さな子供たちがスポーツとかかわれる場、イベント開催などもあります。また、自宅が飲食業を営んでおり、年に四、五回ほどゴルフコンペをトータルで約50回ほど開催しています。参加者の年齢層は幅広く、プレー後の爽快感や達成感、プレーでの他者と触れ合うことで生まれる連帯感を感じることができます。スポーツをすることで、健康増進、体力向上が可能になり、生活そのものに活力を与えることができると考えます。

1、人口減少、高齢化により地域コミュニティの共助機能が低下、コミュニティの希薄化が進んでいる中、生涯幸せに暮らす健康づくりのスポーツの推進を市ではどのような対策をとっているのか疑問になりました。

そこで1つ質問をさせていただきます。

(1)島田市では、競技志向ではなく健康増進のための市民スポーツは、どんなスポーツをどんなタイミングで開催していますか。

以上で壇上での質問を終わらせていただきます。

[5番 喜田里歩さん発言席へ移動]

○議長(村田千鶴子議員) 染谷市長。

[市長 染谷絹代登壇]

○市長(染谷絹代) では、喜田さんの御質問にお答えをしたいと思います。市では、島田市スポーツ振興推進計画に基づき、市民1人1スポーツの実現に向け、スポーツ推進委員会を中心に、誰でも

楽しむことができるニュースポーツの普及促進をしております。日ごろあまり運動していない人にも気軽にスポーツを楽しんでいただけるような環境づくりを推進するため、ニュースポーツであるトランポウウォーク、ワンバウンドふらばーるバレーボールなど計5種目、延べ年間70回の教室を開催しております。

また、小学校4年生から6年生を対象としたジュニアスポーツクラブ事業を実施しておりまして、陸上、水泳、テニスなど全5種目について、年間各20回の教室を開催しております。

以上、答弁申し上げます。

なお、再質問につきましては、担当部長から答弁させる場合がありますので、よろしくお願いいたします。

○議長(村田千鶴子議員) 喜田さん。

○5番(喜田里歩さん) 御答弁ありがとうございます。

再質問いたします。年間70回の教室を開催しているとのことですが、スポーツ教室には年間どのくらいの人数の方が参加していますか。

また、参加している主な年齢層はどのくらいでしょうか。

○議長(村田千鶴子議員) 大石教育部長。

○教育部長(大石剛寿) スポーツ教室につきまして、年間どのくらいの人数の方が参加しているか、あと、主な年齢層はどういった年齢かということでございますが、まず、人数でございますが、ここ3年間を例として挙げさせていただきますと、平成28年度は延べ1,215人、平成29年度は延べ1,010人、平成30年度は延べ1,178人という結果でございました。

また、参加している年齢層ですが、20代以上の幅広い年齢層の方が非常に多く参加をしていただいているわけでございますが、特に50代、60代の方の参加が多いという傾向でございます。

以上です。

○議長（村田千鶴子議員） 喜田さん。

○5番（喜田里歩さん） ありがとうございます。
グラウンド・ゴルフやスポレックなどのように、
市民が自主的に活動する愛好家のグループの育成
が地域コミュニティの形成につながるのではない
かと思いますが、市ではどのように考えますか。

○議長（村田千鶴子議員） 大石教育部長。

○教育部長（大石剛寿） スポーツ振興課で実施し
ているスポーツ教室というのが、誰でも気軽に楽
しめる、今、言われたスポレック、そういったニ
ュースポーツの種目等を行っております。こうし
たスポレックとかファミリーバドミントンなどは、
スポーツ教室をきっかけにして市民に浸透したニ
ュースポーツでございます。スポーツ振興課では、
スポーツ教室に参加した方々から、そういったグ
ループが立ち上がって、その後、その方たちが自
主的に協会を設立して、大会あるいは教室の運営
などを活発に行っていただくことを目指しており
まして、そうした活動を通して地域コミュニティ
も形成されていくと期待をしております。

また、スポーツ振興課で実施をしていなくて、
公民館あるいは公会堂で地域の方が自主的にスポ
ーツ教室を実施している例もございまして、その
ような活動は地域コミュニティが形成されている
一例と考えております。

○議長（村田千鶴子議員） 喜田さん。

○5番（喜田里歩さん） ありがとうございます。
スポーツが盛んに行われていることはわかりまし
た。

幅広い年齢層の方々が参加されていることがわ
かりましたが、障害者スポーツの推進は行ってい
ますか。

○議長（村田千鶴子議員） 大石教育部長。

○教育部長（大石剛寿） 現在、障害者スポーツ教
室などは、市単独では開催をしておりません。障
害者スポーツ教室につきましては、県の障害者ス
ポーツ教育協会が主催をして、ローズアリーナで

開催をしております。この教室に対しまして、市
としては、会場を確保するなどの側面的な支援は
行っております。

また、今年度11月に開催をいたしますニュース
ポーツふれあいフェスタの中で、障害者パラスポ
ーツパークというイベントの開催を計画しており
まして、これをきっかけに今後、パラスポーツ教
室などの開催へ結びつけていきたいと考えており
ます。

以上です。

○議長（村田千鶴子議員） 濱田教育長。

○教育長（濱田和彦） 少しつけ加えをさせてい
だきたいと思えます。障害者のスポーツ教室とい
う形ではないのですが、例えば、例年行っていま
すトランポウォークのイベント等には、今年は残
念ながら参加がなかったのですが、ずっと継続し
て全盲の方も参加してくださっています。さまざ
まなイベントに障害を持った方でも参加できるよ
うに私たちも努めていきますから、御相談してい
ただければ、できる限り受け入れを考えていき
たいと思っています。

○議長（村田千鶴子議員） 喜田さん。

○5番（喜田里歩さん） 御回答ありがとうございます。

最初の御答弁の中にありました島田市スポーツ
振興推進計画によると、子供から高齢者までの市
民が参加できる生涯スポーツを推進するため、ニ
ュースポーツ教室を開催して、スポーツ人口の拡
大を図るとともに、ニュースポーツの普及を促し、
スポーツを通じた多世代間交流や地域コミュニテ
ィの形成を推進しているとあります。

そこで、少しお時間をいただきまして、私から、
誰もが参加できるスポーツとしてウォーキングサ
ッカーの提案をさせていただきます。ウォーキン
グサッカーとは、2011年にイングランドで発祥し
たスポーツで、文字どおり歩くサッカーです。ル
ールは、走ってはいけません。接触することでも

きません。オランダ、スペイン、ドイツなどヨーロッパ各地で広まり、日本サッカー協会も推進活動を行っています。視覚障害、聴覚障害など7つの障害者サッカー団体に加盟している選手たちも、一部特別ルールをつくりながら、同じピッチでさまざまな違いを超えてまぜこぜでウォーキングサッカーを楽しんでいます。

公式のコートの大きさはテニスコートより少し大き目で、参加人数は5人对5人が基本ですが、室外、室内を問わず、会場の大きさや参加人数によって変更してプレーすることが可能で、参加者は年齢、性別、障害のあるなし、サッカー経験のあるなしなどにかかわらず、誰でも楽しめます。

私が行った体験者からのアンケートでは、3世代ともに参加できることがうれしい、初心者でも皆の協力でゴールが決められた、我慢することが苦手な子供が、走ってはいけないルールで我慢強くなる、自閉症の子が言葉を発するまでになった、知らない大人の方から褒められてうれしかったと子供の声など、体験談を聞くこともできました。

また、島田市民を対象としたスポーツに対する意識調査では、スポーツをする理由として、家族の触れ合い、仲間・友人との交流があり、誰でも楽しめるニュースポーツを推進してほしいという声や、スポーツをさらに盛んにするためには、年齢に合ったスポーツの開発・普及が重要との声があります。そして、「スポーツの社会的効果等についてどんなことを期待していますか」の問いでは、高齢者の生きがいづくり、健康づくり、親子・家族の交流促進、地域コミュニティの形成、世代間交流の促進が挙げられています。

福島県南相馬市のはらまちクラブでは、平均年齢70歳、サッカーの経験のない男女で、最高年齢は88歳です。クラブでは、知らない者同士が集い、ウォーキングサッカーを通じて新しいコミュニティをつくっています。88歳の方は、まだゴールを決めたことがないので、夢はゴールを決めること

だとおっしゃっているそうです。

私自身も、日本サッカー協会の推進活動でウォーキングサッカーを体験してきました。当日は視覚障害の2名の方と大きな声でコミュニケーションをとりながら楽しみ、あつという間に万歩計は1万歩を超えていました。走ってはいけないルールは思う以上に難しく、体だけでなく脳のトレーニングにもなりました。

推進活動もあり、日本でも急速に広がっています。Jリーグのサンフレッチェ広島では、ウォーキングサッカーで婚活イベントを開催しています。県内でも、清水エスパルスやアグレミーナ浜松などの民間クラブのイベント開催で徐々に広がりを見せています。

しかし、全国の自治体で本格的に取り上げているところはないと聞いています。先ほど御回答いただきましたように、島田市では、グラウンド・ゴルフやスポレックのような、行政主導のスポーツ教室から市民による自主的な活動に広まっていった実績があると思いますので、年齢、性別、障害のあるなしにかかわらず誰もが参加できるウォーキングサッカーをいち早く島田市に取り上げていただき、コミュニティ、健康づくりのために広げていただきたく提案いたします。

○議長（村田千鶴子議員） 大石教育部長。

○教育部長（大石剛寿） ただいま御提案いただきましたウォーキングサッカーでございますが、グラウンド等でやる分には特に大丈夫なのですけれども、例えば、体育施設、体育館の中などでやる場合につきましては、多くの方に御利用いただいていることから、会場確保等につきまして多少課題はあるかと思っておりますけれども、今後、スポーツ振興課のほうでも、スポーツ推進委員の皆様や、あるいはスポーツ団体の皆様とも相談をさせていただきまして、研究をしてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（村田千鶴子議員） 濱田教育長。

○教育長（濱田和彦） さまざまな提案をありがとうございます。特にウォーキングサッカーについては、興味深く聞かせていただきました。特に世代間広く参加できる、それから、障害者も参加できるということについては、大変な魅力があるものだということを思っています。いろいろな形で取り組むことができたならありがたいと思いますし、底辺から拡大していくことで、一つの競技となっていくとありがたいと思います。

それから、コミュニティのお話を大変興味深く聞かせていただきました。部長のほうからも答弁させていただきましたが、地域コミュニティを強くするという事は、島田の元気にもつながることですから、大事なことだと思いますから、先ほど地域の公民館や公会堂でもそのような活動をしている、行政主導というよりも地域主導のような形のほうが、地域コミュニティの活性化ということにはよりつながるのではないかと思いますから、そういうところを応援していくといいなとは思っています。

特にスポーツをするときのよさというのは、健康的なことというだけではなくて、仲間と集うという楽しさがあると思うのです。それこそまさにコミュニティにつながっていくことだと思うものですから、そこら辺がこれからも広がっていくといいと思っています。

少しでも1人1スポーツというところに私たちは進めているものですから、その一つとしてウォーキングサッカーが仲間に加わっていただければありがたいと思っています。ありがとうございます。

○議長（村田千鶴子議員） 喜田さん。

○5番（喜田里歩さん） 以上で私からの質問と提案を終わります。ありがとうございます。